

8250

軍務部

陸軍部 第二號

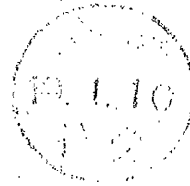
二二

昭和十八年三月

特設監視艇

新勢丸奮戦録

第一監視艇隊



一、遭 遇

昭和十八年三月九日、瑞濱賀々山艇隊の特設監視艇新勢丸、哨戒線、最南端配備点、北緯三十三度〇分東経百五十二度〇分、到着後所定、分哨区内に在り、哨戒ニ依リ、三月二十日一一〇。頃天測、結果、配備点、約十哩前方（北緯三十三度五十分、東経百五十一度五十八分）ニ偏位、見知り、艇位修正、タメ、微速ニ北上中、艦橋上部ニ在リシ見張員ガ、左三十五度ニ監視艇が見エ、ト船長山口運三ニ報告セ、船長ハ同艇ガ、最南端、艇ニ在リ、而シテ約十哩、偏位セル状況ヨリ推シテ、味方監視艇ナル筈ハナク、敵潜水艇ニ疑ヒナシト判断直ニ該方向ニ轉舵ス、ト共ニ其旨艦橋下、船長望ニ在リシ、船長海軍兵曹長滝本義雄ニ報告シ、船長、道ニ艦橋ニ上リ来リ、ト配置員ニ就テ、令シ尚セ状況ヲ確カムル中、該艇ハ浮上状態ニテ、航進シ来ル潜水艇ナルコト判明、更ニ敵味方、區別ヲ見定ムルベク警戒ヲ嚴シシ、航進中、二一二距離約八千メートルナリ、頃突如潜水艇ハ砲撃ヲ開始シ、二發ノ砲彈ハ新勢丸、三百乃至四百米前方ニ落下水中、ト嘗テ果然敵潜水艇ナルコト判明被我、距離約五千メートル道付キ、ト船長ハ、射方始メ、令シ初弾ヲ放テリ、時、二二一八。

二、砲 員

海軍二等兵曹 山本清治 海軍水兵長 武攻岩雄

海軍一等水兵 佐藤秀次

之ヨリ先敵潜水艇ヲ見ユト、聲ニ六種砲射手海軍二等水兵曹山本
 清造、同ニ番砲手海軍一等水兵佐藤秀次ノ兩名ハ直ニ砲台ニ駆上リ
 敵潜水艇ナルコト確認スルヤ射撃ノ準備ヲ整フ一方一番砲手海軍水兵
 長武政是雄ハ直ニ彈藥庫ニ到リ十發分、火管ト火管回螺器トヲ携
 へ砲台、自己ノ配置ニ就キ艇長、射方始メ、令下ルヤ三人ハ平素ノ
 訓練ト些カモ異ルコトナリ殊ニ砲聲僅ニ二十發ノ少數ニ止マル爲ニ一發
 ニシテ無駄彈ヲ射ツトナリ様互ニ相勵マシヨシトヨシト哉聲ヲ擧ケ
 ツ、適確ナル射撃ヲ續行ス、砲台愈々傾キ火管ヲ装着ヤル十發、
 彈丸ハ既ニ之ヲ撃盡シタル爲ニ三人ハ交々地ノ末ダ火管ヲ装着シテ
 ガ時既ニ彼我ノ距離ハ約一千メートル敵ニ十種或跟機銃彈ノ爲ニ砲台
 附近ハ死ラ火焰ニ包マレタル如ク艇周囲ノ水面ニハ無敵ノ水花沫ニ
 リ敵射撃ハ熾烈ヲ極メ火管装着ハ愈々急ヲ要スルニ至ル
 當時右舷前部ニ在リテ小銃ヲ執リ射撃中ノ徳方員海軍水
 兵長吉田宣一、同運馬船逆藤島一及艦橋上部ノ機銃甲板ニ
 在リシセシモ我機銃員海軍水兵長城田惣志ノ三名ハ「火管取
 付ケテ誰カ来テ呉レ」ノ聲ニ應シ直ニ砲台下ニ駆付テ砲台上ニ在リ

火管未装着、彈丸ヲ受取り装着セバ直ニ砲員ニ手渡シ應戦ニ
 努ム所ニ信管装着済、彈丸裝填ノ爲メ一番ガ尾栓ヲ開キ二番
 佐藤一水ガ之ヲ弛メントシ立上リタル瞬間迄未セル一彈ハ佐藤一水ノ
 顔面下部ヲ粉碎 佐藤一水彈丸ヲ持チタル儘、砲身ノ方ニ向ヒグツト
 膝ヲ突キツツ俯伏ニ倒レ其儘壯烈ナル戦死ヲ遂ゲ同人ハ若年ニモ
 拘ラス終始沈着冷靜ニ射撃手動作ヲ行ヒ態度極メテ美事ナリ
 佐藤一水ノ持チタル彈丸ハ直ニ一番、武政水長之ヲ取り裝填發射
 續キテ順次砲台下ヨリ手渡シ来ル彈丸ヲ次々ニ裝填發射スル中、四彈
 目ニ不發彈アリ尾栓ヲ開キ見、ハ火管、装着不充分ナルコト判明
 ナリ爲、武政水長ハ城田水長ノ持チタル回螺器ヲ受取り火管ヲ充
 分ニ締直シ終ル瞬間飛来セル一彈ハ左舷側、彈藥庫ニ命中シ
 ノ彈片ハ武政水長ノ左眼瞼ヲ破リ射手山本ニ響、腹部ニ音響
 彈片劍ヲ貫ハシム武政水長ノ左眼ハ爲ニ露出シ山本ニ響ノ筆業
 服ハ失ニ染シ顔色蒼白トナリタルモ屈セズ更ニ残彈ヲ撃續ク遂ニ全
 彈ヲ撃盡サントスルヤ武政水長ハ彈藥庫内ニ三發ノ演習彈ニルヲ
 想起シ之ヲ取り行クヤク砲台上ヨリ甲板ニ飛降りタル一瞬右舷側
 ヲリ飛来セル一彈ハ外舷ヲ貫キ前部兵員空庫ニ中リテ轟然炸
 裂火管装着、爲砲台下ニ在リ、城田、吉田、西水長ニ重傷ヲ負ハシ



三七七 耗機銃頁

武政水長、水夫近藤ヲ傷ツク吉田水長ハ腹部及大腿部首管彈
 片劍ノ重傷ニモ屈ス濱習彈ヲ取リニ行クヤリ彈庫由ニ入りタルモ
 遂ニ力盡キテ仰向ニ倒ル武政水長亦暫ク人事不省トナリタ
 聴テ海水、シブキニテ息ヲ吹キ返シ腹這ヒッ、彈庫由ニ降り濱習
 彈ヲ包ミアリシ生木綿ヲ以テ左眼ヲ縛リ濱習彈一發ヲ甲板ニ持シ
 儘再ビ人事不省トナリ城田水長ト折重リテ甲板ニ打倒レ
 砲台下、甲板ハ一面血ノ海トナリ凄慘ヲ極ム射手山本ニ背ハ遂ニ
 一人トナルヤ重傷ノ身ヲ押シテ自ラ甲板ニ降り末リ濱習彈ニ
 發ラ砲台下ニ這ビ之ヲモ適確ニ裝填發射シ驚嘆スベキ冷靜カ
 可テ事ヲ處シタリ

海軍二等兵曹荏原作藏、海軍水兵長城田惣吉、
 七七九機銃射手、配置ニ在リシ海軍二等兵曹荏原作藏ハ二番城田
 水長ガ火管裝着着標模ノ為赴キタル後、敵潛ト距離約八百メートルヤ
 射撃手ヲ開始降ルガ如ク二十秒或跟機銃彈ノ中ニ在リテ冷靜沈
 着ニ照準ヲナシシ彼技、距離接近スルニ從ヒ銃身ヲ折トバカリ
 猛射ヲ浴セ以テ敵艦橋上ニ在リシ数名ヲ斃セルモノ如ク、愈々至近
 ノ距離ニ近付キタル時既ニ彈倉残り少ナトナリタルニ氣付クヤ益々照

準正シクシ間隙ヲ置キテ心中ノ有効彈ヲ浴セ爲ニ最後逆座
 毫ノ故障ヲモ生セシメズ又彈丸ヲ盡キシムルコトナク以テ平素ノ訓
 練ノ成果ヲ遺憾ナク發揮セリ

四、船橋

船長 海軍兵曹長 滝本義雄 船長 年屬 山口連三
 運轉士 年屬 平山銀之助

總計ヨリ取置ニ就ケタル後船長ハ船橋上部ノ機銃甲板ニ上リ全員
 ヲ叱咤激勸、船橋ニ船長獨リ舵輪ヲ執リテ必死ノ操舵ヲ續
 ケシガ彼我ノ距離五六百米トナリタル頃敵ニ機銃ノ一彈ハ船橋前
 部ノ窓硝子ヲ貫通操舵中ノ船長山口連三ノ右頭部ヲ擦レ鮮血ハ
 流レテ抵ニ入り右眼ハ全ク視カク奪ハレタルヲ以テ傳聲管ヲ通ジ機
 銃甲板ノ船長ニ「下ニ降りテ来テ下サイ」ト傳フ
 船長降リ来タルヤ之ニカヲ得テ船長ハ尚モ操舵ヲ續ケル中須臾ニテ
 更ニ右胸部ニ砲彈ノ彈片ヲ受ケ右手ノ自由ヲ失ヒタル爲左手ノミニテ
 操舵ヲ續行セシモ漸次困難トナリ遂ニ運轉士平山銀藏ヲ呼寄セ
 之ト交替セリ

船長ハ絶エズ砲員及爆雷ニ對シ指示命令ヲ與ハタルモ轟々タル砲
 銃声ニ遮ラレテ徹底セズ艦ヲ砲彈盡キ機銃彈モ残りシトノ悲痛

ナル聲、艇内諸處ニ上ルヤ

今ハ之迄トテ捨身ノ突撃ヲ決意、船長亦襟舵室ノ下ナル自室ヨリ酒瓶ヲ持来リ之ヲ叩キ割リテ底ニ残リタル僅カノ酒ヲ船長、船長、運轉士、三人ニテ飲交シ、船長ハ機関室ニ至リ血涙ヲ絞リ以テ各員ヲ激勵、船長ハ後部ニ赴キ爆雷ヲ用意セシメ一同ニ最後ノ覚悟ヲ促セバ一同荒雨トシテ之ニ應ヘ更ニ船長ハ電信員ニモ今ヨリ突入スル旨ヲ告メテ船橋ニ歸リ来リ、船長ハ爆雷投下ノ時發ヲ窺ヒ以テ敵艦ニ向カセ全速ヲ以テ突入セントセリ

五、小銃員

海軍水兵長 吉田宣一(信孝夏) 海軍中尉上級兵 増田 益

同 軍属 大石庄吉 同 軍属 田中興一

同 軍属 大橋信光

優勢ナル敵ニ對シ小銃ヲ以テ終始一員奮戦、敵闘特ニ吉田水兵長如キハ一方彈藥補給、應援中、並傷ヲ受ケシニ元原セズ任務ヲ全ウシテ遂ニ斃ル。増田中尉上級兵射撃中敵機銃彈ノ夕メ頭部並ニ腹部ニ重傷ヲ負ヒテ後立タズ軍属大石、田中、兩氏、如キハ射撃中負傷セルニ拘ラズ更ニ後部ニ於テ爆雷準備作業中敵彈片、爲共ニ頭蓋骨ヲ粉碎シテ散華ス何レモ壯絶鬼神モ泣カザルヲ得ンヤ、

六、彈藥供給員

軍屬 法月平太郎

軍屬 山口悌太

軍屬 近藤萬一

最後逆沈着奮戰力闘法月、近藤、如左相当、深傷ヲ負ヘルモ
原只相共ニ彈藥ヲ補給並爆雷戰準備、應援以テ最久、戦闘
ヲ至揮齊興スル所大アリシノミナラス法月ハ更ニ戦闘後ニ於ケル艦内
ノ整頓並死傷者、整理介抱ニ努カスル等天晴ニナル行爲ハ讚辭
ヲ吝ミザル所ナリ

七、爆雷員

海軍二等兵曹 須賀川 勇

海軍予備上水 松浦源作

同 軍屬 青野清一

敵潜水艇約四〇〇米、至近距離ニ接近セシ時、我砲彈ハ演習彈迄
モ既ニ盡キ僅ニ残ルセシ概機銃弾ヲ以テ應戦シツ、アリシモ事
茲ニ至リテハ萬策窮シタルト肉弾突撃ノ意ヲ決シ爆雷攻撃ヲ
以テ利シ交ヘント準備完成待機中ノ爆雷ヲ命ニヨリ投下スルコトニ
四ニ及ボタルモ敵、回避スル所トナリ速力及バズ遂ニ威嚇ニ終リタルヲ惜ム
然レドモ艇ノ奮迅的突撃運動並砲機銃ノ勇戦奮闘ト相俟テ
本爆雷攻撃ハ敵潜水艇ニ大ナル脅威ヲ與ヘ遂ニ遁走セシメタル功績ハ大ナルト認め

八、電信員

軍 屬 森谷平太郎

船橋ト通信装置ナキ電信室ニ於テ船長ノ命ヲ受テ且ツ其ノ意ヲ體シ極メテ沈着冷静ニ徹直適切ナル戦況並情報ヲ報告シ交戦中ニ或ハ切斷空中線ノ補修ニ或ハ戦況ニ順應シテ暗号書、海中沈下処理ニ最善ヨリ速ニ尚暗号書沈下短ノ通信ニ對シテモ適切ニ機轉ヲ利カレ円滑ナル連絡ヲ遂ゲ得タルハ畢竟平素軍人精神ニ對シ深キ関心ヲ以テ錬成ヲ積ミワ、アリシ武徳ナリト稱スベシ

九、機務員

軍 屬 山口虎吉

軍 屬 山口政治

軍 屬 三原清

優勢ナル敵潜水艦ニ對シ劣弱ナル監視艇トシテ乾油一擲ノ接戦ニ苛烈ナル戦闘運轉中若干ノ不具合ヲ生ジタルモ適切ニ應急操作ヲナシ敵ヲ数手攘スルニ至リシメタルハ、一ニ採用ノ適切ナル整用ト運転ノ然ラシムル所ニシテ賞讃ニ値ス

要之

兵装區力失ニ極メラ、貧弱ナル一小監視艇ニテ新鋭ナル敵潜水艦ト舷々相摩ノ接戦ヲナシ矢彈盡テ肉弾ニ憑ル途ニ敵ヲ走ラシム

其ノ意氣壯絶ト言ハンカ痛快ト稱センカ軍人ハ素ヨリ軍屬ニ
於テモ其然ルヲ見ル敵兵ノ心膽ヲ寒カラシメタルハ勿論鬼神
泣クバシ

二千六百年ノ傳統ヲ有スル「撃子テシ止マン」ノ雄魂ハ脉々滾々ト
シテ傳ハリツアルヲ中外来リ見ヨ。此ノ敢闘精神ヲ此ノ
氣魄ヲ艦隊長官ヨリ賞電ヲ賜ハル宜ナル哉

終リニ洋心ニ散華セシ英靈ノ瞑福ヲ禱ルト共ニ敢闘セシ
勇士ノ功績ヲ稱ヘ且ツ勞苦ヲ謝シ武運長久ヲ祈リツ、割愛
擱筆スル次第ナリ

附記 長官賞電

三月二十二日本戰鬥ニ関シ第五艦隊司令長官ヨリ哨戒部
隊宛、左記賞電ヲ賜リタリ

「新勢丸ガ挺身健闘敵潜水艦ヲ攻撃シ此ヲ殺退セルハ
大イニ可ナリ敵機動部隊虫動ノ兆アル、時一同益々奮
勵任務ヲ全フセヨ」

(終)

(見取圖、裏面添)

74

見取圖

